



かほく市立河北台中学校

令和5年9月8日

学校だより【特別号（学校評価・学力調査より）】

さわやか

校長 漢野 有美子

4月に実施しました市の学力調査（1，2年生）、県・全国学力調査（3年生）の結果が公表され、前期学校評価の集計ができました。本校の結果と分析・改善策の概要についてお知らせします。

1 前期学校評価より（生活や学習に取り組む姿勢等の問いからの抜粋）

①生徒アンケート：過去の前期との比較

肯定的な回答の割合

質問項目		R5	R4		
授業・学習	授業は分かりやすい	1年	97	95	授業が分かりやすいと感じている生徒が9割である。今後も分かりやすい授業を工夫していく。
		2年	89	90	
		3年	94	92	
		全	93	92	
	授業では課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。 (R4：授業では理解しようと自分で考え自分から取り組んでいる)	1年	94	90	授業は落ち着いて取り組んでいる。さらに見通しを持って学習に粘り強く取り組む主体性を育てたい。
		2年	86	93	
		3年	93	94	
		全	91	92	
	友達や先生の話、分かれようとして聞いている	1年	98	97	しっかり聞くことができる生徒が多い。今後は自分の考えを互いに交流し合う中で思考を深めることが次の課題である。
2年		97	96		
3年		99	98		
全		98	97		
家庭生活	自分で計画を立てて勉強している	1年	87	77	自分の将来の夢に向けて、定期テスト期間だけではなく計画的に学習する習慣を持たせたい。
		2年	71	74	
		3年	71	69	
		全	76	73	
	平日の勉強時間が2時間以上	1年	23	24	3年生において学習時間が増えている。今後も家庭学習の大切さを伝え、取組を工夫していく。
		2年	24	7	
		3年	36	36	
		全	27	23	
	平日のメールやネット等の時間が2時間以上	1年	35	54	全学年メール・ネット等の時間が増えた。情報モラルも含めて使い方の指導を随時行っていく。
2年		68	48		
3年		52	42		
全		52	48		
学校生活	学校へ行くのは楽しい	1年	94	84	生徒たちは毎日元気に学校生活を送っている。生徒主体の活動を工夫していく。
		2年	83	87	
		3年	89	84	
		全	88	85	
	物事に最後まで粘り強く取り組んでいる。	1年	96	92	自ら進んで活動に取り組むことで達成感や満足感を感じることができるよう今後も取組を工夫していく。
		2年	85	92	
		3年	94	90	
		全	92	91	
	いじめはどんな理由があってもいけない	1年	98	99	「いじめはどんな理由があっても人間として絶対に許されない行為である」という意識を持たせていく。
2年		100	95		
3年		99	95		
全		99	96		
自尊意識面	自分には良いところがあると思う	1年	82	70	授業をはじめとするあらゆる教育活動の中で生徒の頑張りを認める・褒めることで自信を持って行動できるよう声かけや支援に努めていく。
		2年	75	74	
		3年	79	74	
		全	78	73	
	将来の夢や目標を持っている	1年	72	75	地域人材の活用でキャリア教育の推進に今後も努めていく。
		2年	74	71	
		3年	73	72	
		全	73	72	

②生徒アンケート：保護者と生徒との比較 肯定的な回答の割合 ( )は昨年度の前期

対象	質問項目	生徒	保護者
生徒・保護者	学校へ行くのが楽しい	88%(+3)	84%(+3)
生徒・保護者	自分で計画を立てて勉強している	76%(+3)	65%(±0)
生徒・保護者	しっかりと挨拶をしている	94%(±0)	88%(±0)
生徒・保護者	朝食を毎日食べている	93%(-2)	95%(-1)
生徒・保護者	将来の夢や目標を持っている	73%(+1)	58%(-8)
生徒・保護者	平日、家庭学習の時間が1時間以上である	75%(+1)	61%(-1)
生徒・保護者	休日、家庭学習の時間が2時間以上である	52%(+2)	34%(-6)
生徒・保護者	平日、メール、インターネット等の時間が1時間以上である	81%(+3)	78%(+2)
生徒・保護者	休日、メール、インターネット等の時間が2時間以上である	81%(+1)	75%(+2)
保護者	お子様と学校の出来事について話をしている	/	83%(-1)
保護者	学校は、お子様をよく理解し、指導している	/	75%(±0)
保護者	学校からの便りやホームページで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	/	92%(+4)
保護者	いじめ防止の取り組みが伝わってくる	/	65%(+2)

※ ( / ) は実施していない項目です。

\*家庭学習の時間の捉え方について、子どもと保護者にやや差がみられる。

※今年度も小中連携事業の1つとして、中学校の定期テスト期間を校区の2小学校では「家庭学習週間」として取組を実施している。

\*平日に1時間以上メール、インターネット等を使用している生徒が8割以上いる。SNSやネット・ゲームの使い方について今後も随時指導をしていく。

\*引き続き全校一斉の漢字・英単語テストを実施することやICT(タブレット端末)を活用した小テストを実施し、継続的かつ計画的に学習に取り組む習慣を身に付けさせていく。

\*「学校からの便りやホームページで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる」の項目が9割を超えていることから、今後も、学校の様子や取組等について、各種たよりやコードモン、ホームページで随時「発信」し、保護者・地域に信頼される学校を目指して努力していく。

## 2 学力調査結果より

4月17日(月)に石川県基礎学力調査(社会・理科)、4月18日(火)に全国学力・学習状況調査(国語・数学・英語)が、3年生を対象にそれぞれ実施されました。また、かほく市では4月に1、2年生を対象とした学力調査が行われました。調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導等に役立てることです。

今回、本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にお知らせします。なお、各学力調査により測定できるのは学力の特定の部分であり、また学校における教育活動の一側面であることをご理解くださいますようお願いいたします。

※3年生は、全国学力・学習状況調査〔国語・数学・英語〕と石川県基礎学力調査〔3年：社会・理科〕

※1・2年生は、かほく市実施の学力調査

下記の表の中の印(◎○□△▲)は本校の平均正答率を、国や県の平均正答率と比較したものです。

比較対象より ◎：5%以上高い ○：2~5%高い □：ほぼ同じ △：2~5%低い ▲：5%以上低い

		国語	数学	英語	社会	理科
1年	国との比較	□	◎	/	○	○
2年	国との比較	○	□	○	○	◎
3年	国との比較	◎	◎	◎	/	/
	県との比較	◎	◎	◎	□	○

・3年生の国語・数学・英語の3つの教科は全国や県の平均を大きく上回っています。

・全学年、全教科において無解答率は高くないことから、あきらめずに答えようとする姿勢が伺えます。各教科を分析すると、正答率の高い設問がある一方で、学習の定着が不十分な内容・領域が見られます。特に、知識を活用する問題や記述式の問題に課題がみられています。

### 3 今後に向けて

### 学校と家庭の連携で学力向上

時間やルールを守ること、自分から挨拶をすることなど基本的な生活習慣はどの学年においても良好な状況です。また毎日の授業では、落ち着いた態度で学習に臨み、学校行事や委員会活動など一人一人が役割を持って頑張っている姿が見られます。

そのような中、学校評価で十分ではない部分については謙虚に受け止め、これまでの取組を見直し、今後は以下に示したことをはじめとして改善に努めていきたいと考えています。

#### ■学校での取組

夢や目標に向かって頑張る生徒の育成を目指しています。本校の校訓「常に正しく」のように自分で考え、正しく判断して行動できる生徒を育成するため、授業では仲間とのかかわりの中で、「自分の考えをつなげる、深めて発信する」ことを重点に全職員で取り組んでいます。また、学習の土台となる「安心して話し合いができる学級づくり」を進めています。

#### ①学習面

- ・研究主題「生徒が意欲的に学ぶ授業づくり」に基づいた授業実践の継続  
授業後半の充実と深い学びの実現、そして学びの自覚や変容・達成感を味わうことが確実にできるよう授業改善に一層努める。
- ・各種学力調査等の結果から、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、各教科で身に付けた知識・技能を様々な場面で思考・判断・表現しながら活用していく力を鍛えていく。
- ・ICTの活用については、GIGAスクール構想3年目として、タブレット端末の授業での有効活用を図っている。引き続き、授業等での活用を進めていく。

#### ②生活面

- ・生徒の活動を前面に出し、成功や失敗にこだわらず「認める、褒める、励ます」など生徒指導の充実を図る。「さわやかカード」の活用、様々な活動を通して「自己肯定感」「自己有用感」を高める。
- ・日頃の生徒との関わりをより一層深め、学年職員による定期個人相談等を活かし、信頼関係の更なる構築を目指す。
- ・家庭学習時間とメールやネット等の時間の差をなくすための指導や「早寝・早起き・朝ご飯」などのより良い生活習慣を確立するための指導を継続する。

#### ■家庭へのお願い

①スマホやゲーム等の使用状況を確認する

②ネットの時間を決める（お子さんと話をし、自分で決めさせる。（例：平日は1時間など）

★「将来の夢や目標としていること」や「SNSなどのネットの使用について」など家族で話す機会をぜひ設けてほしいと思います。

### 4 いじめ未然防止のために取り組んでいること

いじめは、「どの子供にも、どの学校でも、起こりうる」ものであることを十分認識して「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を、学校教育全体を通じて、生徒一人一人に対して徹底し、未然防止、早期発見に努めています。保護者からの情報も大切なものの一つです。ぜひ今後ともご協力をよろしく願います。

#### ■主な取組

①毎月の「学校生活サポートアンケート」の実施

昨年度からタブレット端末を用いて実施しています。今年度は周りを気にせず回答できるようタブレット端末を自宅に持ち帰っています。「仲間はずれにされている、からかわれているなどと感じることはありますか」などのアンケートを行う中で、いじめられていないかどうかの情報を得ています。結果に応じて、本人から聞き取りを行い、事実の確認をしながら指導を進めています。

②教育相談の機会

担任や学年職員と生徒との1対1の相談の機会を設け、その中から情報を得ています。

③日頃の様子を観察

朝の登校の様子や休み時間での巡回など、授業中以外の生徒の様子を見ながら、情報を得ています。

④道徳教育の充実

人を思いやる心、命を大切にすることなど、豊かな心の育成に努めています。

⑤全校集会などの講話

生活指導担当や外部講師などから、いじめを許さないことについての話をしています。

#### ■いじめの情報を得たあとの対応

- ・事実確認を行い、内容に応じて謝罪などの指導を行っています。保護者へも事の経緯を説明します。
- ・必要に応じて、心のケアとして、スクールカウンセラーや教育相談員との面談を行います。場合によっては、教育委員会などの関係機関とも連携を取りながら進めていきます。
- ・事が起きた後、少なくとも3ヶ月関係生徒の様子を観察していき、必要に応じて指導していきます。
- ・内容に応じて、県派遣職員の生徒指導サポーター（元警察勤務）に、関係機関との連携等について助言を受けて対応しています。※本校ホームページ「令和5年度版いじめ防止基本方針」参照

保護者の皆様、アンケートのご協力ありがとうございました。学校では学校評価の結果を踏まえ、それぞれの課題を改善しながら、より良い河北台中学校にしていきたいと考えています。今後も、河北台中学校が、地域にとってもより良い学校となるよう皆様のご支援ご協力をよろしく願います。なお、中間報告を9月中旬にホームページ上で公開しますので、併せてご覧ください。

## 保護者の皆様からのご意見より

高校進学や将来何の仕事をしたいのかなど、具体的に学習・指導していかないと、将来の事が分かっていないような気がします。何のために勉強するのか、仕事をするってどういう事なのか、子供がもっと身近に考える事ができるようになるといいと思います。

今年度4年ぶりに職場体験を2年生で実施することができました。職場体験では職業の理解だけでなく職場の人との関わり方やコミュニケーションの大切さなど多くのことを生徒たちは学び、自分の将来について考えることができた生徒が多かったようです。本校のキャリア教育は、1年生では自分の特徴を知ることや、地域の方を講師にお招きし、職業や働くことについて学習します。2年生では職場体験を通して職業観・勤労観を養い、また上級学校についての学習をします。3年生ではさらに自己理解を深めて自分の夢・目標に合った進路決定にむけての学習等を行います。各学年でのキャリア教育を充実させ、生徒達が自分の将来と学業を結びつけ、意欲的に学習に取り組めるようにしていきたいと思います。

プールの授業は男女別にしないのですか。少し考えてもらえると嬉しいです。

学習指導要領では「年齢や性別、障害の有無等に関わらず、運動やスポーツを楽しむ」ことを目標としており本校においても保健体育の授業は男女共修で実施しています。もちろん、ペアをつくる活動や体力的に別の方がよいと判断する単元については分けて指導することもあります。水泳においては、一緒に活動をしております。なお、水着について本校では個人に任せており、ラッシュガード等も認めています。

学校で使用するタブレットについて、インターネットがつながるので、知らないことを調べたりする分にはよいのですが、便利だけではないと考えています。

国の考え方としてタブレット端末は特別なものではなく、文房具と同じという考え方です。学校としても、これからの時代、情報機器を使えるようになることは必要な力だと考えています。タブレット端末は、ドリル学習や授業での個々の考えの共有、調べ学習など学ぶ目的に応じたツールとして使用しています。視覚と聴覚から複合的な情報を得ることができるため、理解度が増すとともに学習意欲も向上します。しかし、長時間使用すると視力低下、集中力の低下などデメリットもあります。学校では、子供たちにタブレット端末のメリット・デメリットを含めた正しい使い方について指導しています。また、情報モラル学習も行っています。タブレット端末は宿題等で家庭に持ち帰ることもありますが、ご家庭におきましても生活のルールやリズムを守ることを前提に利用時間など十分に話し合っただけで効果的に使っていただけであればと思います。できれば、「検索履歴」や「端末に保存されている画像等」を定期的に確認するなど、使用状況の見守りをお願い致します。

中学生の生活リズム（勉強、テスト、部活など）にまだ慣れないところもありますが、1年生や部活の顧問の先生方の指導のおかげで、毎日楽しそうに登校していく姿が見られ安心しております。ありがとうございます。

今後も生徒たちの学校生活が充実するよう、職員一丸となって、生徒一人一人に寄り添いより良い教育活動を進めていきたいと思っております。

学校をコロナ等で休んだ時の学校の主な対応について、どの様に対応しているのでしょうか？

今年5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、以前の様な長期の出席停止はなくなりました。学校では出席停止期間中の授業で使用した学習プリント等は、出席停止期間の長さにもよりますが、お子さんが休み明けに登校した時に渡したり、出席停止期間中に保護者に取りに来ていただいたり、担任が家庭訪問で届けたりしています。休んでいた期間の授業内容について質問等があれば休み時間や放課後等で教えています。